



秋田の消防を考える県民の集いを開催

平成二十年二月九日 於 秋田市文化会館



題 字
初代会長 松野 盛吉
定 価 1部 5円
(購読料は年会費に含む)
発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 中泉 松之助
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
E-mail:ask@biscuit.ocn.ne.jp

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760

秋田県消防協会は、本年度に秋田県からの委託を受けて実施している「わがまちの消防団活性化支援事業」の一環として、多くの県民から消防についての理解と協力を頂き、もって消防団員の確保と消防団の活性化を図ることをねらいとして、「秋田の消防を考える県民の集い」を開催した。

当日は厳寒の中にもかかわらず、一般県民、消防関係者のほか、他県消防協会の視察者も含め、会場の400席がほぼ埋まるほどの盛況を呈した。

開会のあいさつに立った中泉県消防協会会長は、「今後とも、県民の安心・安全を維持向上させるためには、常備消防はもとより、要となつていく消防団を活力あるものとし、県民が一体となつて地域防災力を強化していかなければならない。」と訴えた。

平成十九年度全国統一防火標語
『火は見てる
あなたが離れる
その時を』

この後、本県の潟上市昭和出身で本年度の秋田県文化功労者表彰を受章した水中写真家の中村征夫さんによる記念講演に始まり、大館市大館消防団のまとい振り、昨年の全国女性消防団員活性化熊本大会に参加した二人の女性消防団員の意見発表、秋田市消防本部消防次長の土館隆司さんの提言が行われ、午後四時一〇分に成功裡のうちに閉会した。

中村征夫さんの記念講演

ご自身が1993年に取材で訪れた北海道奥尻島で200人以上の命を奪った北海道南西沖地震に遭遇。滞在していた島南部の青苗地区が津波と火災で壊滅するも九死



に一生を得て、愛用のカメラを流失したが、友人から借りた小さいカメラで災害直後の奥尻島の惨状を撮影し、その写真が共同通信社から発信され、世界中の新聞に掲載された。

当日は、その中から写真家の視点で捉えた数枚のスライドで、環境や動物・魚へのやさしさもおりまぜながら貴重な体験を臨場感たっぷりに講演。参加者は、中村さんの講演によって、改めて地震や津波の怖ろしさを再認識するとともに、その時の備えや対処のしかたを学んだ。

終わりに、中村さんは、消防人の日ごろの献身的な活動に対して感謝の言葉を述べられ、関係者は胸を熱くした。

女性消防団員意見発表

発表の三種町消防団の金子咲子さん、秋田市消防団の松本恵さんのお二人は、制服



姿でにこやかに登場。昨年十一月に開催した第十三回全国女性消防団員活性化熊本大会の各都道府県女性消防団員の意見発表や寸劇をコミカルに紹介。大会で学んだことを今後の活動に活かすとともに、これからも地域防災の担い手として使命感に燃えて活動したいと述べた。

活力ある消防団への提言

発表の土館隆司さんは、秋田市消防本部消防次長で消防庁から委嘱された消防団員



確保アドバイザーである。土館さんは、本年度に秋田県消防協会が実施したアンケート調査に基づき、県内消防団の現状と課題について解説し、消防団員を確保し活力あるものとするために、

- ① 消防団はあらたな発展をめざす時である
 - ② 消防団員であることの魅力の実感づく
 - ③ 消防団の認知度の抜本的向上
- の三点の提言を行った。
- アンケート調査の詳細や土館さんの提言を含めた活性化方策については、「わがまちの消防団活性化支援事業報告書」として秋田県消防協会が三月までに取りまとめる。



消防団幹部

特別研修に参加して



湯沢市消防団 団長 金子 哲雄

消防団の災害対応能力の向上と活性化を図り、団の指導者を養成することを目的に、「消防団幹部特別研修」が、一月二十二日から二十五日まで日本消防会館で開催され、各都道府県から一名が参加、秋田県消防協会長の推薦により、不肖私が受講することとなりました。

ここ何年来、講義とか研修とかの機会から縁遠くなっていて、計画されている数々の講義に対応出来るのかという心配を胸に上京しました。

一日目は、日本消防協会の五階大会議室で受付を済ませてから研修案内があり、研修生の心得や期間中の服装の統一、幹部としての責任の自覚と誇りを持った行動等の講義を身の引き締まる思いで受けました。その後、虎の門パストラルホテルにチェックインし、懇親会では、日本消防協会長さんも参加して盛大に四十七都道府県幹部の皆さんとの語らいや名刺交換をし、長時間にわたる初日は終了しました。

二日目は、事務局のオリエンテーションに続いて、開講式が五階大会議室で行われました。国歌斉唱、辞令交付、理事長挨拶、消防庁長官挨拶、宣誓等が行われました。理事長講話では、消防団員が当初は二百万人ぐらいいたのが、現在は九十万を割ってしまった現実から回避するためには、女性消防団員の増員によって百万人にしたいという構想が話されました。その後は、ニッショーホールへ移動して写真撮影が行われました。

最終日の午前中は、全国四十七都道府県を三班に分けた後、私が第一班の班長に推挙され、女性消防団員の活動のあり方について第一班の十六県で話し合いをしました。話し合いで、実際火災現場で活動しているのは山形県だけで、後は予防広報及び救急救護指導に従事している実態でした。今後の地域防災力の向上、出火防止の推進、危険管理意識の醸成、現在の複雑多岐にわたる災害への対応等、消防団幹部としての進むべき方向の一部が見えてきたように感じて、益々精進する覚悟を新たにしましたところであります。

午後からは、研修生四十七名全員無事修了証を受領し、閉講しました。

全国各都道府県の四十七名の代表幹部の皆様には、また何時の日にか会えることを約束して日本消防会館で解散をいたしました。終わりに、このような研修の場をつくって下さいました日本消防協会、総務省消防庁、県消防協会に心からのお礼を申し上げ、第三十四回消防団幹部特別研修の報告といたします。

秋田県消防協会第三回理事会
平成二十年二月二十五日 於秋田市 イヤタカ

理事会では、五件の協議事項について次のように決定するとともに、十二件の報告事項を了承した。

- 1 平成二十年年度協会行事予定(案)について
 - 提案の行事案を了承。日本消防協会では、五月十三日(十五日)に消防団国際会議を、十月十一日(十二日)に全国消防操法大会を自治体消防六十周年記念行事として、それぞれ東京都で開催する。
- 2 平成二十年度法令外負担金について
 - 秋田県市長会及び秋田県町村会の法令外負担金について双方の決定通知を了

承。市長会は申請どおりであったが、町村会は10%の削減となった。

3 平成二十年年度に日消より配備される多機能型消防車両について
 配備する消防団は、近く配備希望を募り、何らかの選考機関を設けて決定する。

4 殉職消防団員招魂碑補修について
 提案のあった200万円の補修内容で実施することとし、契約に当たっては県の指導を得る。

5 公益法人制度改革の概要と対応について
 新しい公益法人制度の関連法が、本年十二月一日に施行されるが、公益目的事業のガイドラインが本年四月ころ示される予定であることや他都道県協会の動向など現時点で判断材料に乏しいのに加え、大幅な改革で協会の制度設計に期間を必要とすることなどから改革の方向性及び移行時期を定めることは困難なので、今後情報把握に努め、別途協議する。

以下報告事項
 ・平成十九年度消防功労者表彰について
 ・集中豪雨による罹災互助会見舞金について
 ・会費の納入状況について
 ・第十八回全国女性消防操法大会について
 ・第十三回全国女性消防団活性化熊本大会について
 ・平成十九年度日消共済事業による消防車両の交付について
 ・平成十九年度防火ポスターコンクールについて
 ・平成十九年度消防団員研修受講者について

- ・協会銀行口座の移設について
- ・大仙市仙北市美郷町支部事務局の移管について
- ・わがまちの消防団活性化支援事業について
- ・秋田県消防広域化推進懇談会について

消防団幹部第五十一期

教育研修が行われる

一月十九日、二十日 於 秋田県消防学校

全県消防団の班長以上の幹部の教育訓練を目的とした、消防団幹部第五十一期教育



研修が十四消防団から二十二名が入校して行われた。

一日目は、消防団の制度、団活性化方策などの消防団の概要及び震災時の活動や住宅用火災警報器設置などの防災指導要領を、二日目は幹部としての現場指揮のあり方や訓練礼式などを学んだ。熱心な受講により、十分に修得されたものと思われ、受講された消防団幹部の今後の現場での一層の活躍を期待したい。

消防団員基礎教育

(第五十三期) 行われる

二月一日、三日 於 秋田県消防学校

消防団入団三年未満の消防団員への教育訓練である消防団員基礎教育(第五十三期)が、全県五消防団から十五名が入校して行われた。

一日目は、消防団員の職責と心構え、火災防衛、消防団の現状と役割等について、二日目は、地震などの防災、安全管理、救助等を学んだ。



消防団員には、系統立った教育プログラムが確立しておらず、今後の充実が待たれるが、とりあえず、団員にとっては初めての教育を受け、消防団員としての大卒の理解が図られたものと思われる。

消防団員基礎教育は、年二回開講しており、来年度も七月、二月に予定している。七月は多忙時とは思われるが、入団間もない段階での基礎教育の受講が個々の団活動に極めて有効なので、市町村消防担当者の皆さんには団員の入校を特に勧めて頂くようお願いしたい。

秋田県消防学校からのお知らせ

本校では、平成二十年度に消防団員の実践的警防戦術や基本的救急技術等の修得を図るため、次のような教育訓練を計画しています。それぞれ、近くなったらご案内いたしますので、積極的な入校・申込みをお願いいたします。

- ① 消防団基礎教育 (概ね三年未満の団員を対象)
 - 一回目 平成二十年七月 五日(土) 六日(日)
 - 二回目 平成二十一年二月二十一日(土) 二十二日(日)
 - ② 消防団幹部教育 (班長以上の団員を対象)
 - 平成二十一年一月十七日(土) 十八日(日)
 - ③ 消防団特別教育 (市町村長等の推薦団員を対象)
 - 分団毎に教育訓練を実施 (毎年、秋田市消防団が幹部研修を一日二日実施)
 - ④ 消防団現地研修
 - 学校教官が現地に向いて教育訓練を実施する。
 - ⑤ 日本消防協会指導員研修 (団員の指導者の養成を目的として県消防協会が主催する)
 - 平成二十年十一月二十九日(土) 三十日(日)
- 旅費は県協会が負担、二十年度から一泊二日に変更

第31回消防職員意見発表秋田県大会



第三十一回消防職員意見発表秋田県大会が、二月十五日に秋田市の秋田拠点センター・アルヴェで行われた。県内十三消防本部毎に行われた地区大会で選ばれた十三人の消防職員が消防現場で感じたことや仕事上の発言などを元気に発表した。審査の結果、秋田市消防本部の白山友彦さんが「わたしたちの責任」と題して、「住宅用火災警報器の設置促進で住民の大切な命を守ることがわたくしたち消防職員の責任である」と訴えて最優秀賞となった。白山さんは、四月二十四日に仙台市での東北大会に出場する。

なお、優秀賞は、大曲仙北広域市町村圏組合消防本部の進藤秀俊さんと、能代山本広域市町村圏組合消防本部の出雲渉さんが選ばれた。全般的に表現力のレベルが向上しており、より具体的な意見発表が多いとの講評があった。

消防 旗・ゼッケン
優勝 旗・タオル
手拭・タオル
旗幕 類名入染物専門

寺田染工場

横手市清川町 ☎32-0416

消防団員なんて無理だ、と思っていた。
ところが、辞を聞いてみると、消防団には消防団員や学生団員もいて、
消防活動のほか、各種活動や防災活動、防災学習の機会、指導など、
いろいろな活動があることがわかりました。
消防団は、まさに地域に根づくには欠かせない存在なんです。
でも、消防団の活動の幅があまり知られていないので、団員が足りません。
だから、

消防団員募集

消防団員という仕事に興味をもちたい方、
消防団ホームページ www.fdma.go.jp/syobadan/ まで



消防団員としての活躍の場が広がります。消防団員としての活躍の場が広がります。消防団員としての活躍の場が広がります。

総務省消防庁では、消防団員の退団が多くなる三、四月にかけて、「消防団入団促進キャンペーン」を実施することとし、日本消防協会を含め、全国知事会、全国市長会・町村会、全国消防長会など関係団体に協力要請を行っています。

同庁では、キャンペーンに合わせて、ポスターやビデオ、PRパネルなどを制作するとともに、一月から三月にかけて、各市町村の行政広報誌やケーブルテレビ、インターネットなどを通じた啓発や、各種イベント等において、ポスター、パンフレット、DVDなどを活用した団員募集広報等を行うよう要請しています。

また、消防団協力事業所表示制度についても積極的に導入し、入団促進を図るよう求めています。

なお、入団促進のためのビデオとDVDは、各消防本部、当協会にも備えております。防火啓発用のビデオ等と同様に貸し出しを行いますので、引き続き集会などの際に活用してください。

消防団入団促進に向けたキャンペーンを展開

消防庁など

全国の消防団員数及び女性団員の推移

区 分	H14.10.1	H16.10.1	H18.10.1	H19.10.1	増 減	増減率(%)
全 国						
消防団員数	3,627	3,461	2,552	2,457	△1,170	△32.3
消防団員数	937,956	919,981	900,650	895,294	△42,662	△4.5
男性団員数	926,098	906,465	885,674	879,253	△46,845	△5.1
女性団員数	11,858	13,516	14,976	16,041	4,183	35.3
秋 田 県						
消防団員数	67	67	37	37	△30	△44.8
消防団員数	20,001	19,451	18,712	18,433	△1,568	△7.8
男性団員数	19,928	19,366	18,617	18,321	△1,607	△8.1
女性団員数	73	85	95	112	39	53.4

(増減はH19とH14の比較)

日本消防協会では、昨年十月一日現在の全国の消防団の現況をとりまとめました。消防団員数の減少が続ぎ、九十万人の大台を割ったことが明らかになりました。これによると全国の消防団の数は、市町村合併に伴う統合などにより、平成十四年度の三、六二七団から昨年十月には二、四五七団と五年間でほぼ三分の二に減少しています。

秋田県の場合も、六十七団から三十七団に統合が行われているほか、団員数も二万人台から一万八千人台に減少しており、団員数の減少に歯止めをかけることが急務となっております。


当協会では、今年度は県の受託事業である「わがまちの消防団活性化支援事業」を実施し、入団促進と活性化に向けた事業を行っています。今後とも消防関係者が知恵を出し合って、消防団員確保に向けて取り組んでいくことが求められており、引き続き皆様の御協力を御願いたします。

トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ 総合防災設備センター
消防被服全般
秋 田 県 代 理 店

株式会社 高 義 商 会

(営業種目)

- トーハツ小型動力ポンプ
- モリタ自動車ポンプ
- ジェットホース
- 消防被服全般
- 火災報知器各種
- 消 火 器 各 種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32 電話(0183)(42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 電話(0183)(73)2588

株式会社 タカギ

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182)(32)3880

(営業種目)

- 日本機械自動車ポンプ
- トーハツポンプ
- 各種消防機械器具
- 消防設備保守点検
- キンパイホース
- シパウラポンプ
- 各種消火器

ホームページ <http://www.17.ocn.ne.jp/~takagi/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp

森田ポンプ ラビットポンプ
桜ホース・ソフト吸管 消防被服一式
各種消火器 消防機器一式

株式会社 協 立 能代消防センター

株式会社

〒016-0846 能代市栄町12の3
TEL (0185)(52)6361
(52)6494

地域の防災、災害対策に貢献!

消 防 設 備

ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目10番9号 TEL 018 (863) 1551(代)
猿田興業ビル7F FAX 018 (824) 3651